

平成28年度鍼灸等研究費研究成果 要約

研究課題名	医師の鍼灸治療に対する意識調査 医療連携の確立に向けて
班長 氏名/所属機関	山口 智 / 埼玉医科大学 東洋医学科
班員 氏名/所属機関	織田 弘美 / 埼玉医科大学病院 病院長 金井 忠男 / 埼玉県医師会 会長 片山 茂裕 / 埼玉医科大学 医師会長 須田 清美 / 埼玉県比企医師会 会長 小川 郁男 / 埼玉県坂戸鶴ヶ島医師会 会長 三村 俊英 / 埼玉医科大学 東洋医学科 運営責任者 磯部 秀之 / 埼玉医科大学 東洋医学科 菊池 友和 / 埼玉医科大学 東洋医学科 小内 愛 / 埼玉医科大学 東洋医学科
成果	
1. 目的	地域医療における鍼灸治療の果たす役割を明らかにする目的で地域の医師会と共同で医師の鍼灸治療に対する意識を調査し、今後の医療連携の確立に向けての資料とする。
2. 内容	方法 対象は、埼玉県内の坂戸鶴ヶ島、比企医師会の会員を対象とした。 方法 無記名アンケートを郵送にて送付し、回答の得られたものについて解析を行った。 アンケートの内容は、 Q1. 先生の経験年数をお聞かせ下さい。 Q2. 先生の専門診療科をお聞かせ下さい。 Q3. 現在、先生の施設で鍼灸治療を実施していますか？ Q4. 鍼灸治療を患者さんに推奨、黙認あるいは中止させたことはありますか？理由をお聞かせください Q5. 先生は特定の鍼灸施術所と連携をしているまたはしていたことはありますか？はいと回答した先生に質問です。現在も連携を継続されていますか？ Q6. 鍼灸治療で効果があると感じる疾患や症状はございますか？複数回答可 Q7. 患者さんが鍼灸治療の適応と思われる場合、鍼灸治療を勧めますか？ Q8. 療養費払いに必要な同意書を依頼されたことはありますか？

	<p>あてはまるものにチェックを入れてください</p> <p>Q9. 同意書の依頼を受けたが記載しなかった、またはお断りしたことはありますか？</p> <p>Q10. 鍼治療が国内の診療ガイドラインに記載されていることを知っていますか？はいと回答した先生に質問です。どの内容をご存知でしたか？複数回答可</p> <p>Q11. 鍼治療が推奨されているものには、今後、鍼治療を勧めてみたいと思いますか？</p> <p>Q12. 先生が診ている疾患および症状に対し、非薬物療法である鍼灸治療を治療の選択肢として患者さんに勧めてみたいと思いますか？</p>
<p>3. 成果/考察</p>	<p>【成果】</p> <p>会員 323 名中、161 名で回収率は 49.9%であった。その内訳は、坂戸鶴ヶ島医師会は、128 名中 82 名 (64.1%)、比企医師会は、195 名中 79 名 (40.5%) であった。</p> <p>Q1. 経験年数 0～9 年 3 人 (2%)、10～19 年 23 人 (15%)、20～29 年 46 人 (29%)、30～39 年 51 人 (32%)、40～49 年 25 人 (16%)、50～59 年 8 人 (5%)、60～69 年 1 人 (1%) であった。</p> <p>Q2. 内科 58 例 (30%)、小児科 18 例 (9%)、眼科 15 例 (8%)、消化器科 14 例 (7%)、外科 13 例 (7%)、循環器科 10 例 (5%)、産婦人科 9 例 (5%)、整形外科 9 例 (5%)、皮膚科 8 例 (4%)、精神科 8 例 (4%) の順であった。</p> <p>Q3. はい 12 例 (7%)、いいえ 149 例 (93%) であった。</p> <p>Q4. 推奨した 30 例 (18%)、黙認した 65 例 (40%)、中止させた 6 例 (4%)、無回答 62 例 (38%) であった。</p> <p>Q5. はい 14 例 (9%)、いいえ 146 例 (91%)、無回答 1 例 (1%) であった。</p> <p>Q5 続き はい 9 例 (64%)、いいえ 4 例 (29%)、無回答 1 例 (7%) であった。</p> <p>Q6. はい 72 例 (45%)、いいえ 57 例 (35%)、無回答 32 例 (20%) であった。整形外科疾患 63 例、神経内科疾患 36 例、婦人科系疾患 3、消化器疾患 2 例の順であった。</p> <p>Q7. はい 95 例 (59%)、いいえ 47 例 (29%)、無回答 19 例 (12%) であった。</p> <p>Q8. はい 68 例、神経痛 30 例 (12%)、リウマチ 14 例 (6%)、頸腕症候群 36 例 (14%)、五十肩 22 例 (9%)、腰痛症 42 例 (17%)、頸椎捻</p>

挫後遺症 9 例 (4%)、その他 5 例 (2%)、いいえ 85 例 (34%)、無回答 8 例 (3%) であった。

Q9. はい 26 例 (16%)、いいえ 106 例 (66%)、無回答 29 例 (66%) であった。

Q10. はい 17 例 (11%)、いいえ 141 例 (88%)、無回答 3 例 (2%) であった。

Q10 続き 一次性頭痛に対する鍼治療 8 例 (19%)、筋萎縮性側索硬化症の QOL 維持向上に対する鍼治療 2 例 (5%)、線維筋痛症に対する鍼治療 6 例 (14%)、上腕骨外側上顆炎に対する鍼治療 2 例 (5%)、脳卒中の維持期リハビリテーションの鍼治療 5 例 (12%)、顔面神経麻痺に対する鍼治療 6 例 (14%)、円形脱毛症に対する鍼治療 1 例 (2%)、非歯原性歯痛に対する鍼治療 2 例 (5%)、慢性腰痛に対する鍼治療 7 例 (16%)、がん患者の化学療法・放射線療法の悪心、嘔吐、倦怠感など 4 例 (9%) であった。

Q11. はい 103 例 (64%)、いいえ 43 例 (27%)、無回答 15 例 (9%) であった。

Q12. はい 58 例 (36%)、いいえ 85 例 (53%)、無回答 18 例 (11%) であった。

【考察】

1. 鍼灸治療を実施、または連携している者は数少ないが、その効果や安全性が理解できれば、推奨したいと考えている者が多い。
2. 療養費の同意を依頼されている者は約半数であったが、そのうちの 4 割は同意せず、鍼灸治療や鍼灸治療施設に対する疑問のあることが示された。
3. 鍼灸治療の効果や安全性、更に鍼灸治療施設の基準等が明確になれば、医療連携の確立は十分期待できるものとする。